

施工の手順

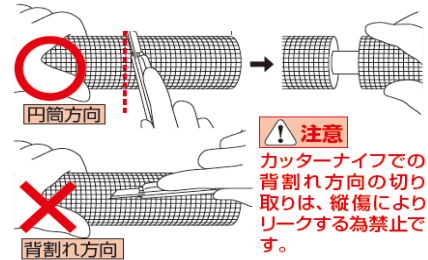
- ・初めて施工される方は、必ず施工講習を受けてください。
- ・施工前に必ずこの要領書をお読みください。

⚠ 警告	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性と同時に物的損害の発生が想定される場合。
⚠ 注意	取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の障害や軽傷を受ける可能性、および物的損害の発生が想定される場合。

⚠ 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・継手を分解しないでください。 ・高所作業する場合は、足場が安定した状態で作業してください。 ・継手の接続作業は1カ所ずつ確実に行ってください。 (同じ室外機～室内機間で2カ所以上並行して作業しないでください。) ・落下させた継手は使用しないでください。 ・一度配管を差し込んで仮止めした継手は、再度配管を引き抜いた場合、再利用できません。 ・ナットを緩める方向に回転させないでください。
-------------	---

① 管保温材の切除

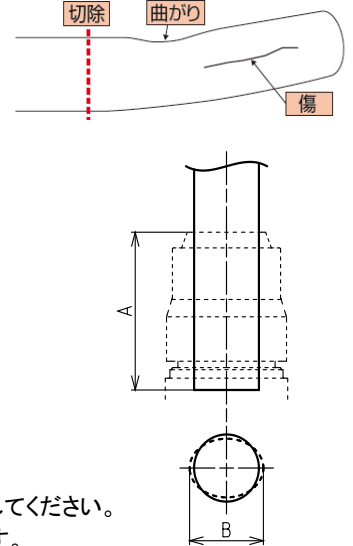
管に傷がつかないように注意し、継手挿入部の保温材を円筒状に切除して下さい。



② 管の確認

継手挿入部に傷、曲がり、扁平がある場合は切除して下さい。

内外面に異物が付着している場合は除去して下さい。



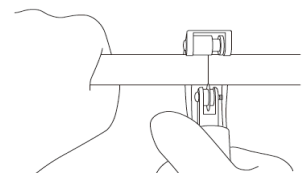
サイズ (mm)	A.最小挿入代 (mm)	B.最大外径寸法 (mm)
φ 6.35	20.9	6.45
φ 9.52	22.3	9.67
φ 12.7	23.9	12.85
φ 15.88	36.4	16.03
φ 19.05	37.7	19.18
φ 22.22	41.2	22.32
φ 25.4	42.2	25.51
φ 28.58	43.5	28.69
φ 31.75	48.5	31.82
φ 38.1	50.5	38.18

- ⚠ 警告** ・管に水平の傷は冷媒漏れを起こすおそれがあるため、絶対にないようにしてください。
- ⚠ 注意** ・管の曲がり、扁平の限度は継手に無理なく奥まで差込みができる範囲です。
- ・酸化皮膜が形成された管を接続される際は、# 1000以上の耐水ペーパーで管表面を円周方向に磨いて酸化皮膜を除去してください。

③ 管の切断

ローラカッターを使用して直角に切断してください。

- ⚠ 注意** ・変形防止のため、徐々に切り込んでください。



④ 管の面取り

- 1) 外面取り：肉厚の半分程度を目安に行ってください。
- 2) 内面取り：カエリが無くなるまで行って下さい。

- ⚠ 注意** ・外面取りがない場合はパッキンを損傷し、リークします。
- ・冷媒流量確保のため、内面取りは行ってください。
- φ 12.7はインコア内蔵構造です。内面取り不足の場合、差し込み不良やインコア損傷の原因となりますので内面取りは必ず行ってください。

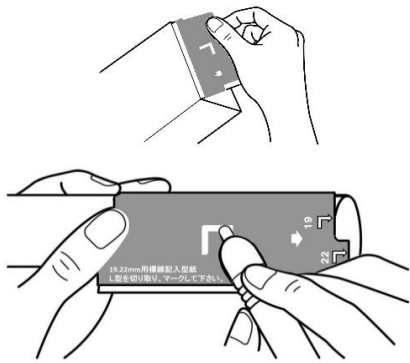


- ・面取り時は配管内部に異物が入らないよう、管端を下に向けて面取りを行ってください。

⑤ マーキング

標線型紙或は樹脂製マーキングゲージを用い、銅管の所定位置にT字型或はL字型の差込標線を記入枠内一杯に塗り潰して記入ください。

1) 標線型紙を用いる場合

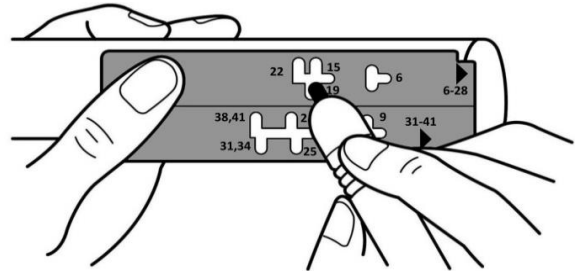


梱包箱側面の標線型紙を切り取ってください。

管端を型紙の端に合わせ、標線を記入(枠内一杯に塗り潰す)してください。

2) 樹脂製マーキングゲージを用いる場合

・樹脂製マーキングゲージを管端に引掛け、標線を記入(枠内一杯に塗り潰す)して下さい。



⑥ 管の差し込み

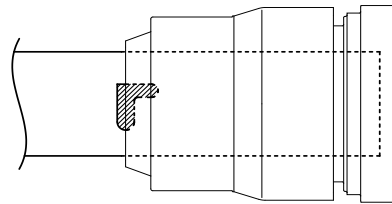
差込標線が継手端面位置に到達するまで真っ直ぐ差し込んでください。



- ・斜め挿入は管の傷付きやパッキンの損傷によるリークを招くため禁止です。
- ・工具で叩いての挿入は禁止です。
- ・管を差し込む前のナット締め込みは厳禁です。



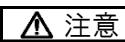
- ・落下させた継手は使用しないでください。



⑦ ナットの締め込み

モンキーレンチで継手本体を固定し、ナットを矢印の方向に緑色のインジケータが見えなくなるまで締め込んで下さい。

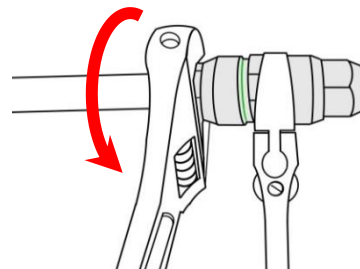
緑色のインジケータが見えなくなるまで締め込んでください。



- ・緑色のインジケータが見えなくなれば締め込みを終了してください。継手破損や応力腐食割れの原因になりますので、過度な締め込みはしないでください。

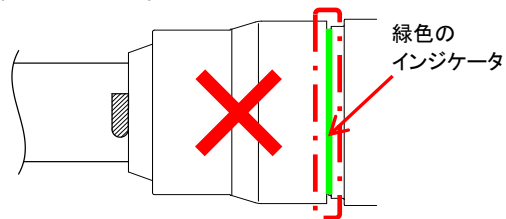
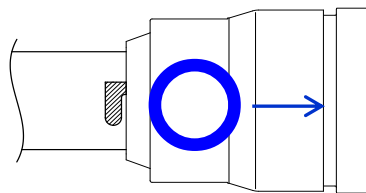


- ・締め込み不足はナットの緩みやナットの緩みに起因する継手性能の低下を招くため禁止です。
- ・ナットを緩める方向に回転させないでください。

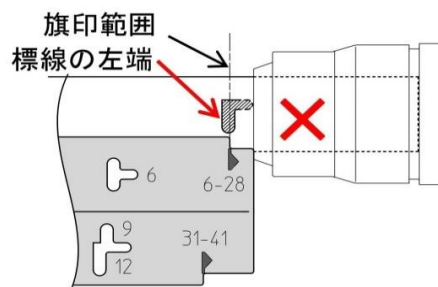
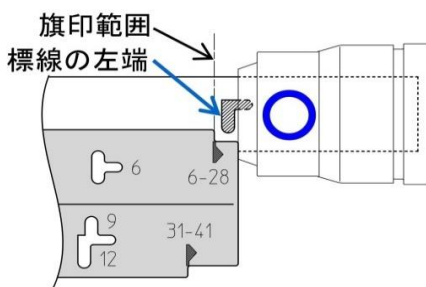


⑧ 接続完了確認

1) 緑色のインジケータが見えないことを確認して下さい。



2) ナット端面にマーキングゲージを当て、差込標線左端までの距離がマーキングゲージの旗印以内であることを確認してください。



旗印はφ28.58以下とφ31.75以上で分かれていますので、間違えないようにしてください。NG判定の場合は接合部を切除し、新しい継手に取り換えて再度施工してください。

⑨ 施工後のご注意

継手を接続した後に過度のねじりを加えないでください。

【ご注意が必要な作業例】

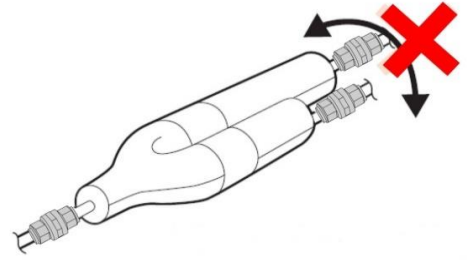
1) 分岐管を接続する場合

あらかじめ分岐管に継手を接続したうえで、分岐管の向き合わせを行い、配管との接続を行ってください。

締め付け後は分岐管を過度に回転させないでください。

・配管との接続後に分岐管の接続を行いますと、継手の締め付け時に分岐管が共周りし、水平にした状態での施工が困難になる可能性があります。

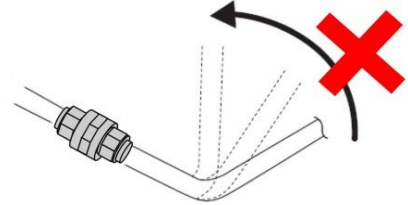
※分岐管は水平に分岐するように据え付けてください。



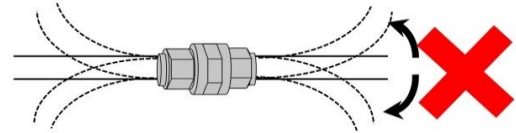
2) 曲げ配管を接続する場合

あらかじめ曲げ配管側に継手を接続したうえで、配管との接続を行ってください。締め付け後に配管の向きを過度に変えてねじらないでください。

・配管と接続後、曲げ配管の接続を行いますと曲げ配管が共回りし、向きを合わせる施工が困難になる可能性があります。



3) 継手を接続済みの配管に曲げ応力を加えないでください。



4) 一度使用した継手は再使用しないでください。継手は新しいものと交換して接続し直してください。配管は再度①～⑧の作業を行ってください。

⑩ 気密試験

・空調機器メーカーの施工・管理マニュアルに基づき実施してください。

・気密試験用のテストプラグも品揃えしています。

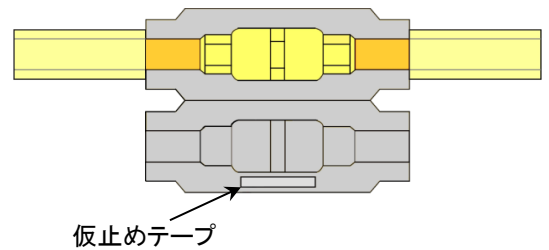
テストプラグの活用により、ろう付けを行わずに気密試験が可能になります。

⑪ 保温処理

1) 保温材のセット

継手専用保温材の仮止めテープの剥離紙を剥がし、継手外周部にセットしてください。

管保温材の端部と隙間が空く場合は、切除した管保温材等を用いて隙間をなくしてください。

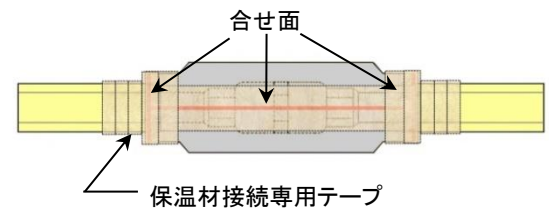


仮止めテープ

2) 保温材の接続

継手専用保温材および管保温材との合せ面を接着剤または保温材接続専用テープを使用して固定してください。

異径継手では継手専用保温材と管保温材との合せ面の段差が大きくなる場合がありますので、隙間がないように固定してください。



保温材接続専用テープ